

## サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第4章 パート2

---

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りよくさんの為にも、お祈りください。

---

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」へブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

また、御座の回りに二十四の座があった。

これらの座には、白い衣を着て、金の冠を頭にかぶった二十四人の長老たちがすわっていた。

(黙示録 4:4)

24 人の長老たち。

彼らは一体誰でしょう。彼らは、これから見ていく黙示録に度々登場します。

天国の場面では大体登場するこの人たちは誰なのか。

可能性として、彼らはただ天国の、天国だけにいる、例えばケルビムのような生き物かもしれません。

または 24 という数字から、教会全般の象徴かもしれません。

旧約聖書の第 1 歴代誌 24 章で、ダビデは全祭司を 24 の組に分けました。

だから旧約聖書の 24 組に分けられた祭司の可能性もあります。

今は、私たち教会が国家や王国の祭司です。(黙示録 1:6)

彼らが、キリストに在る者に与えられる義の白い衣を着ていることから、私たち教会である可能性もあります。

ということで、彼らは天国にしか存在しない生き物かもしれないし、もしかしたら教会かもしれない。

私は 12 使徒ではないかと考えます。

マタイ 19 章でイエスはこう言っています。

「あなたがたも十二の座に着いて」(マタイ 19:28)

それから 12 部族。

ヤコブの 12 人の息子たちはイスラエルの 12 部族になりました。

なぜこんなことを言うかという、黙示録 21 章で新しいエルサレムが登場すると、それらの門には十二人の御使いがおり、イスラエルの子らの十二部族の名が書いてあった。

(黙示録 21:12)

十二の土台石があり、それには、小羊の十二使徒の十二の名が書いてあった。

(黙示録 21:14)

門には 12 部族の名前が、土台石には 12 使徒の名前が書いてある。

12 部族と 12 使徒で 24。

これは、旧約聖書と新約聖書の神の民全体を表します。

部族は旧約聖書の信者、使徒は新約聖書の兄弟姉妹の代表で、合わせて 24。

その可能性は大ですね。

でも！彼らが誰かは特定できません。

ただ分かっていることを、これからお話しします。

もしあなたが、ミニストリーに関わりたいと思っているならよく聞いて下さい。

「奉仕をするにはどうすればいいのか。」という話をしばしば聞きます。

女の人なら「女性のミニストリーをもっと活発にしたい。」とか、「もっと礼拝に関わりたいけど、どうしたらできるのか。」と思う人もいるでしょう。

イエスは言いました。

「こう祈りなさい。……御国が来ますように。

みこころが天で行なわれるように地でも行なわれますように。」(マタイ 6:10)

この 24 人の長老たちは、私たちがこの地上で長老やミニスターになりたいとか、奉仕をしたいと思うなら、何をすべきかを示しています。

今日は時間の関係でそこまで掘り下げられませんが、彼らが天国で何をしているのか調べてみて下さい。

彼らは役員会なんか開いていないし、プログラムの運営もしていない。

更に上の地位を目指したりもしていません。

彼らは何をしているのでしょうか。

まず初めに見るのは、彼らは御座の回りに座っています。

神の臨在の中にただ座っているだけ。

そして次の章では、傷つき混乱して泣いているヨハネを見つけて、この長老の一人が言います。

「泣いてはいけない。見なさい。ユダ族から出たしし、ダビデの根が勝利を得た」

(黙示録 5:5)

これこそがミニスターが、長老が、行うべきこと。

御座の回りに座って、傷つき泣いている人を見つけては主へと導く。

後日見ていきますが、

長老のひとりが私に話しかけて、「白い衣を着ているこの人たちは、いったい誰ですか。」と言った。

そこで、私は、「主よ。あなたこそ、ご存知です。」と言った。

すると、彼は私にこう言った。「彼らは、大きな患難から抜け出て来た者たちで、その衣を小羊の血で洗って、白くしたのです。」(黙示録 7:13 - 14)

長老はヨハネの近くに行き、霊的な会話へと導くため質問し、霊的事実を伝え教えています。

これが長老の行うことです。

ミニストリーに関わりたい兄弟姉妹は、とにかく霊的なことを話しかける。

たとえ相手が「分からない。」と言っても、「じゃあ、話させてよ。」と言いながら、真実を伝えるのです。

長老たちの前で、新しい歌を歌った。(黙示録 14:3)

新しい歌を歌う。

これが長老の行うことです。

古びた歌を歌うのではなく、今日、今この瞬間に神がされていること、新しいことに関わりを持ち、その流れの中で新しい歌を歌うのです。

長老たちがしていることを見ると、あなたや私がミニストリーですべきことが見えてきます。ミニスターを目指している人たちは、24人の長老たちが天で行っていることを見ると良いですよ。

それは、この地上で何をすべきかのとても良い見本になります。

さて、御座の回りに座っているこの長老たち、頭には金の冠。

御座からいならずまと声と雷鳴が起こった。(黙示録 4:5)

いならずまと雷は嵐。

繰り返しますが、忘れてならないのが、ヨハネは、非常に困難な状況の中を生きている人たちに宛ててこれを書いているという事。

「こんなことがいつまで続くのか。」「どうして神は何もしてくれないのか。」など疑問に思うのは自然なことです。

その人たちに向けてヨハネは、「私が天に上げられた時、神が御座におられた！  
回りには虹があり、御座から赤い色が流れ出て、御座の中には光が内在している。  
その御座があったんだ！」

ヨハネはそれを見て感動し、皆さんや私にも「堂々と進み出よ！」と伝えているのです。

#### 御座からいなずまと声と雷鳴が起こった。(黙示録 4:5)

これは、「そうだ。嵐がくる！」ということ。

神は地上に裁きを下されます。

今日だったか昨日だったか(1996年)、新聞で驚愕したニュースは、アメリカで去年、3000組のホモセクシャルカップルが(その全てが男性カップル)、男の赤ちゃんを養子縁組し、法的に認められた“家族”として育てているという事。

これは正しいことではない！

「主よ。あとどれくらいですか！」

2000組のレズビアンカップルが、女の赤ちゃんを養子縁組して、彼女たちの“家族”として育てると言う。

これは良くない！

ホモセクシャルの人たちが、幼い子供たちを養子にしている。

孤児院にはたくさんの子供たちが待っていて、ホモセクシャルカップルに引き取られていくのです。

これは間違っている！

偏見だとか政治的にどうだとか、何を言われても構いません。

とにかく良くない。間違っている！

公共の電波に乗せて言いますよ。これは間違っている!!

これらは正されるべき事で、いずれ正されます。

いなずまと雷鳴。

罪を犯し続け、それをひけらかす。

私は、問題に苦しみ、それを正そうともがいている人々にではなく、このホモセクシャルの行いを誇示し、見せびらかしている人たちに言っているのです。

それに、何でもありの性的淫乱。

それを持ち上げ、受け入れるように強要する人たち。

でも、聞いて下さい。

神は既に設けられた御座に座り、見ておられる。

そして、御座から起こるいなずまと雷鳴はその時を待っています。

すべてが正しく矯正されるその時を。

神による正義と公正が行われ、涙は拭われ、疑問には回答が与えられ、間違いは正される時が来ます。

このことは、ヨハネのこの手紙を受け取る人たちには、とてつもない慰めでした。

皆さんや私にとっても同じですね。

そこら中にたくさん問題はありますが、しかし、御座からいはずまと声と雷鳴が起こる事を知っているからです。

**七つのともしびが御座の前で燃えていた。神の七つの御霊である。(黙示録 4:5)**

**その上に、主の霊がとどまる。(イザヤ書 11:2)**

神の七つの御霊とは、聖霊が七つあるという意味ではなく、イザヤ書 11:2 には聖霊の七つの性質が書かれています。

聞いて下さい。

御座からいはずまと声と雷鳴、そして、御座の前では七つのともしびが燃えています。

**御座の前は、水晶に似たガラスの海のようにであった。(黙示録 4:6)**

火曜日の夕方、私はデッキに座って湖を眺めていました。

それはガラスのようで、月影が水面に反射して、ただただ美しい！

水上スキーをする人なら分かるでしょう。ガラスのような水面を滑るのは最高です。

完全な平和と平穏。

御座の前はそういう状態。

そういうことで、天国に行くとき御座が目にとまります。

その御座におられる方があなたの心を暖め、御座の前のガラスのような海があなたの心を平安で満たすのです。

次回、この章の終わりの回には、天の御座におられる方への賛美を見ていきます。

これはとても大切な学びなので是非参加して下さい。

このような学びの素晴らしいところは、これから起こる事を覗き見るだけでなく、祈っている時に、自分が何をしているのかをよく理解できるようになるということです。

私が神の御前、主の御前に行く時、彼は私の全てを見て、心から愛して下さい。

私を招き、私が堂々と御前に出ることを喜んで下さる。

私は、いはずまと雷鳴によって、最後に不正を正される方の御前に出る。

**24 人の長老たちのように、私も、御前で主の臨在の中に座ることができるのです！**

もしあなたが最近そうしていないなら、どうか時間を割いて、ただ主の臨在の中に身を置いて下さい。

そして主を思い、主に語りかけて下さい。

そうすれば、あなたの心や魂のざわめきが、ガラスのようになって平安で満たされます。  
問題は、御座の前にはいつでも静寂と平安、ガラスのような海があるのに、じっとそこに座っている  
ことができず、自分で何とかしようとジタバタしてしまうこと。  
自分で解決しようとして、あれもこれも抱え込み、他者の世話を焼き、全く静寂がない。  
私の心はざわめき乱れ、反感や疑問、怒り、そして再び疲れ切って、ストレスに押しつぶされそうに  
なり、それでようやく「わかった。御座の前に出てじっと座っていよう。」と思えるようになる。  
動き回るのを止めて、御父に語りかけ、御言葉を読んで、御声に耳を傾けましょう。  
そうすると突然、平安に満たされます。  
苦しい時には恵みと憐みが与えられます。

皆さん、よく聞いて下さい。  
ガラスのような海を体験し、光を見、“赤めのう”の愛があなたの中に広がっていくのを感じ、十字架  
の業が心の中で事実となるまで待たないで。  
そのような天国を体験するまで待たないで、毎日時間を取って天国へ行って下さい。  
御座におられる方が、あなたを側に招いているのだから、恵みの御座の元に堂々と進み出しましょう。  
辛い時、あなたはそこで、恵みと憐みを体験するでしょう。

父よ。これから起こる事を見せて下さり感謝します。  
また、私たちが今を理解できるようにして下さいったことも感謝します。  
御言葉がただ紙に書かれた文字ではなく、どうか、あなたと共に座ることができるよう、私たちの疑  
問や問題、重荷をあなたに注ぎ出すことができますように。  
そして主よ。あなたが私の心に置きたいと思うものを受け取れますように。  
主よ。私たちが御前に、堂々と出て行くことを許して下さいありがとうございます。  
私たちはあなたを愛しています。  
あなたが必要です。  
主よ。あなたはその偉大な一つの行為、完全なひと言によって、私たちのいのちや疑問や痛みを、あ  
なたに委ねることができるのだと証明して下さいました。  
私たちは、あなたが、カルバリーの十字架の上で言われた全てのことが証明されたことを知ってお  
り、その事実のゆえに安らぎます。  
私たちがこの場を離れても、それらのことを覚え、正しく応じることができるようにと祈ります。  
主よ。今、私たちに祝福して下さい。祝福して下さい。一人一人を祝福して下さい。  
あなたは天国を私たちのために整えて下さいました。  
私たちが天国のために整えて下さい。  
イエスの御名によってお祈りします。  
アーメン

だれでも、あなたの民イスラエルがおのおの自分の心の悩みを知り、この宮に向かって両手を差し伸べて祈るとき、どのような祈り、願いも、あなたご自身が、あなたの御住まいの所である天で聞いて、赦し、またかなえてください。

ひとりひとりに、そのすべての生き方にしたがって報いてください。

あなたはその心を知っておられます。

あなただけがすべての人の子の心を知っておられるからです。(第 1 列王記 8:38 - 39)